

## 第245回 令和8年6月8日（月）

### 「誰に向けて書かれたものなのか」

「人生とは自分のストーリーを1冊の本にまとめるようなものである。」私はこのように思っています。私の本はもうすぐ「あとがき」に入るくらいかなと思いますが、謝辞を含め人生を総括する時期なのかもしれません。

エジソンや坂本龍馬など歴史上の偉人たちは人生というストーリーを多くの人に読んでもらうことになります。本当にその人が体験して感じたストーリーと寸分違わない内容ではないのかもしれませんが、歴史を知るとは自分の人生にも気づきを与えてくれます。

本の厚さは人によって違いますし、内容もまったく異なります。双子であっても同じストーリーにはなりません。人間の数だけ人生というストーリーが存在します。

さて、この人生というストーリーが書かれた本は、いったい誰が読むのでしょうか。歴史上の人物を除き、ほとんどの人はこれを他人に見せることはありません。一人の人間がどのように考えて、判断をして、喜怒哀楽を感じて、何を目指して何を達成することができたのか。もっとも身近な家族でさえすべてがわかるわけではないでしょう。

つまりあなたの人生というストーリーは他人に読んでもらう機会はほとんどないということです。では誰が読むのかというと、それは自分です。

もちろん本に喩えているのは比喻ですが、言い方を変えると「自分の人生は他人に見せるためのものではない」ということです。最後に満足するか、後悔するかは人それぞれですが、誰しもが同じなのは「それを決めるのは他人の評価ではなく自分自身である」ということです。

人生というストーリーを書くときに他人にどう見えるかを優先していませんか。人生は自分のための時間です。必要以上に他者の目を気にすることは自分の人生を放棄していることになってしまいます。自分の本は自分しか読まないのですから、自由に描くことが大切だと思います。

自分の人生が下巻の終わりなのか、「あとがき」なのかわからないけれど、残されたページが多くはないと思います。1行も無駄にしないように、自分らしく生きていきたいと思います。

みなさんは上巻のはじめということころかもしれません。本当に盛り上がるのもこれからです。ワクワクドキドキするような冒険があるかもしれませんし、思ってもみないような展開が待ち受けているかもしれません。何を選択するにしても「しっかりと自分で決断すること。」これを心に刻みつけておいてください。